

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 87 号 / 2018 年 7 月 13 日発行

編集 / 医学研究科長

『見える化の効用－認知機能低下の理解、そして教育へ－』

医学部看護学科老年看護学 教授 中島 洋子

認知症高齢者の推計では、2025 年には 5 人に一人の高齢者に発症するといわれ、認知症の早期診断の重要性が叫ばれている。

私が大学院の博士課程で学んでいた頃、大学病院ものわすれ外来で探索眼球運動計測や認知機能検査に加え、10 単語記憶検査など取り入れ、早期診断を総合的に検討していた時期であった。看護学科の老年看護学の教員は、伊万里市の認知症予防の検診と訪問指導の経験をもとに、指導教授の森田喜一郎先生と協力し久留米市の後援を受け、ものわすれ予防検診を計画した。病院では問診、認知機能検査、MRI や CT などを組み合わせて診断確定に至るが、検診では、そうはいかない。大学が行う検診は地元の高齢者の信頼からか、HDS-R や MMSE を受けることに抵抗がない時代になっていた。認知機能検査の結果のデータから認知症の疑いの強い人、要注意者を精査のため外来受診を薦める。しかし、健常者との区別の見極めが難しく、ほかの検査をいくつか入れることでハイリスク群を見極めることとなった。高次脳疾患研究所の研究の蓄積で、認知機能検査と外来受診者の MRI 検査との相関や分析から、要受診者の判別がしやすくなった。10 単語記憶検査を入れたことも有効だったが、もう一つは探索眼球運動計測による。さらには光トポグラフィ検査（脳血流：酸素化ヘモグロビン量の測定及びしりとり課題）などである。いずれも目に見える形で受診者にも説明がしやすい。検診の参加者に検査結果のデータを示し、脳の状態を説明することで受診の促しができるように工夫できたことは大きい。数値や探索眼球運動の範囲や測定値（反応的探索スコア）、画像にうつる色の変化やグラフなど、目に見えるものを用いて

説明することで検診者への説得力は大きかった。

検診で得られた結果を伝えるだけでは支援とならない。不安を増大させる面もある。地域での検診活動で大事な要素は、社会・時代のニーズ、地域の特徴を知り、相手に配慮した方法で、検診のみに終わらず、地域の持つ社会資源を活かし、連携ある支援体制がつくられるよう、その役割につなげつつ支援のシステムを作っていくことといえる。

検診や研究で得たことの看護への活用として、介護予防等の保健指導につなげることができる。また、看護者が認知症の人の記憶障害、注視力・反応速度の低下など、認知症の人の状態の理解が深まることになる。その症状の理解により、看護の姿勢が変わってくるといえる。注視することが難しいと分かれば、高齢者と向き合い、説明をゆっくり行う。記憶の障害や目にとめることができないこともあるので、さまざまな見やすい媒体・環境を検討することや説明を丁寧にし、促しを何度か行うようにするといったことである。

看護は患者の思いを受けとめ、傾聴し、確認し、援助する。その結果を、相手の反応を観察し、看護の評価を行う。見えにくい点をみる観察力・洞察力が要求される。また、思いを伝えられない方の思いを引き出すことで、より関係性を深め、それらの経験を重ね卓越した看護を実践できるように成長していくことになる。臨床では、NANDA-I（北米看護診断分類）を用いた看護実践では、看護の成果を測定する NOC（看護成果分類）という評価指標（尺度）を用いて、介入後の患者・家族の症状や状態の変化を見て評価することを進めてきたが、最近は看護診断も低迷し行っていないのではないだろうか。

見える化という点において、最近、自己点検・自己評価報告書では成果を求められる時代になってきた。現在、大学教育でも学修成果の把握・評価方法など、どのように行っているか、可視化が求められている。学生と教授側の目標・評価の共有により、

相互理解による教育の質の向上が期待される時代が来ている。例えばパフォーマンス評価においてルーブリック評価を用いるといったことである。今後は、学生の学修成果を見えるよう目標・評価の具体化など、教育の説明責任も問われてくるといえる。



～NEWS～

◆第2回 大学院医学研究科教育ワークショップ開催について

第2回 久留米大学大学院

医学研究科教育ワークショップ

2018年7月27日(金)

13:00～17:00 ワークショップ

会場：基礎3号館 1階

18:00～ 懇親会

医学研究科教育ワークショップは、医学研究科委員会の教員、修士課程・博士課程在学学生や修了生、講座や研究所内で研究支援を行う職員、事務職員、大学院教育に興味・関心を持つ学内関係者のみなさんが参加する提言実行型のワークショップです。

第2回となる今年は、医学研究科の発展に向け入口戦略と出口戦略の両方からより深いディスカッションを行い、みなさんと魅力あふれる医学研究科を目指していきたいと思っております。

テーマ1：魅力的な医学研究科に向けて～入口戦略～

- 1-A 総合生命科学・バイオ統計学専攻の学生募集と広報戦略
- 1-B 医学研究科の国際化と広報戦略

テーマ2：学位取得率アップに向けて～中身の充実と出口戦略～

- 2-A 修士課程：仕事、プライベート、学業の両立
- 2-B 博士課程：学生・教員が共に取り組む研究推進と支援

※テーマタイトルは仮です。変更の可能性もあります。

時間	内容	会場
13:00	開会式、Introduction, Ice breaking	
13:15	全体活動(テーマの背景情報・現状報告等)	
14:00	グループ討議 (小グループ：1-A, 1-B, 2-A, 2-B)	ミーティングルーム
16:00	全体発表、アクションプラン策定	セミナー室
17:00	閉会	
18:00	懇親会・情報交換会	レストラン(市内)



〒830-0011 福岡県久留米市旭町67(旭町キャンパス)
Tel: 0942-31-7527(庶務課) / 0942-31-7528(教務課)



◆大学院医学研究科 facebook をご利用下さい

2017年3月に大学院医学研究科の公式 facebook を立ち上げています。大学院生のみならず広く地域の方へ大学院の活動をお知らせしています。企画として「修了生インタビュー」や「在学生インタビュー」を実施し、修了生や在学生の生の声をお届けしていきます。院生にとっても、これから大学院を目指そうと考えている方にとっても、大変有意義な内容となっています。医学研究科ホームページやニュースレターでも配信していきますので、是非ご覧ください。今後、院生のみなさまにインタビューをご依頼することもございますが、何卒ご協力の程お願いいたします。

FB：<https://www.facebook.com/kurumeugsm/>

HP：<http://www.kurume-u.ac.jp/site/gmed/shosaiart753.html>



◆第4回研究発表会の日程が決定しました

主に博士課程を対象とした研究発表会が今年度も12月10日(月)・11日(火)に開催されます。エントリー受付期間は7月13日(金)～8月24日(金)です。ご自身の研究の進捗状況を把握し、客観的なフィードバックを得ることができる好機ととらえ、ふるってご参加ください。詳細が決まり次第、順次周知してまいりますので乞うご期待ください。

事務通信

◆健康診断未受診者の方へ

医学部B棟1階保健管理センターにて4月及び6月(本学職員)に実施しておりました健康診断はお済みでしょうか?やむを得ない理由で受診できなかった場合は、これに代わる証明書をかならず保健管理センターへ提出してください。

特に、社会人学生の方で、職場で健康診断を受診される方は、受診後速やかに健康診断の写しを保健管理センターへご提出ください。



◆現住所が変更になったら・・・

現住所が変更になりましたら、必ず「学生現住所変更届」の提出が必要です。なお、メールアドレスや電話番号が変更になった場合も、教務課までご連絡ください。重要な書類がお手元に届かない場合がありますので、ご協力よろしくお願い致します。(※「学生現住所変更届」は大学院HPよりダウンロード可)。

◆博士課程の皆様へ◆

平成30年度 博士課程共通科目レポート提出期限について

博士課程共通科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。



科目名：**遺伝子多型 (SNPs)**
 科目責任者：神田芳郎 (法医学)
 締切日：6月29日(金) 17時
 提出先：医学部事務部教務課窓口

科目名：**ゲノムドラフトの解明**
 科目責任者：石原直忠 (分子生命科学研究所)
 締切日：9月21日(金) 17時
 提出先：医学部事務部教務課窓口

科目名：**ゲノム創薬の進歩**
 科目責任者：児島将康 (分子生命科学研究所)
 締切日：7月31日(火) 17時
 提出先：医学部事務部教務課窓口

科目名：**免疫関連分子とT細胞抗原
レセプター多様性の解明**
 科目責任者：山田亮 (先端癌治療研究センター)
 締切日：講義時に指示
 提出先：講義時に指示

科目名：**実験動物学**
 科目責任者：御船弘治 (動物実験センター)
 締切日：講義終了後に指示
 提出先：動物実験センター受付

平成30年度 大学院セミナーシリーズ（特別講義） カリキュラムのお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
病理学講座	9月4日(火) 18:00~19:30	基礎3号館1階 セミナー室	原田 憲一 先生 (金沢大学医薬保健研究域医学 系 人体病理学・教授)	自己免疫性肝炎の病理
内科学講座(内分泌 代謝内科部門)	9月6日(木) 14:20~15:50	基礎3号館1階 セミナー室	田中 廣壽 先生 (東京大学医科学研究所附属病 院 抗体・ワクチンセンター 免 疫病治療学分野 教授)	多臓器連関による個体レベ ルのエネルギー代謝制御 ーグルココルチコイドによ る筋萎縮の分子機構解明を 発端として
神経精神医学講座	9月28日(金) 17:00~18:30	臨床研究棟2階 共同カンファ ランスルーム	中村 純 先生 (社会医療法人北九州病院・北九 州古賀病院 院長)	職場のメンタルヘルス不調 者の早期発見と復職支援
内科学講座(心臓・ 血管内科部門)	10月5日(金) 17:00~18:30	教育1号館 5階1501教室	小川 久雄 先生 (国立循環器病研究センター・ 理事長)	日本における循環器疾患の エビデンス
解剖学講座(顕微解 剖・生体形成部門)	10月12日(金) 予定	基礎3号館1階 セミナー室	小池 正人 先生 (順天堂大学医学部・大学院医学 研究科 主任教授)	未定
病理学講座	10月16日(火) 18:00~19:30	基礎3号館1階 セミナー室	Mina Komuta, M.D. (サリユック・ルーヴァン・カトリック大学病 院病理・教授)	肝腫瘍の画像診断と病理診 断
薬理学講座	10月22日(月) 17:00~18:30	基礎3号館1階 セミナー室	Yong-Seok Oh (Laboratory of Neural Signaling Networks Brain Science Department Daegu Gyeongbuk Institute of Science and Technology (DGIST) (韓国)・Assistant Professor)	Translatomic Anatomy of Antidepressant Actions in the Hippocampus
小児科学講座	11月16日(金) 16:00~17:30	教育1号館 3階1301教室	小林 史明 先生 (株式会社CTD 代表取締役社長)	医薬品開発の最適化
整形外科科学講座	12月6日(木) 予定	基礎3号館1階 セミナー室	牛田 享宏 先生 (愛知医科大学学際的痛みセン ター・教授)	痛みを科学する
医化学講座	未定	基礎1号館 2階会議室	河野 隆志 先生 (国立がん研究センター・先端医療 開発センターゲノムトランスレ ーションリサーチ分野・分野長)	がんゲノム医療の実装と課 題

※今後の予定を掲載しています。

開講日時・場所等に変更がある場合には、大学院医学研究科ホームページでお知らせします。

また、当該科目履修者は5回以上のセミナー出席およびレポートの提出をお願いいたします。

レポートについては、各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。

履修者以外の方も自由聴講が可能ですので、是非ご参加ください。

編集後記

早いもので新年度が始まり3ヶ月たちました。学生生活はいかがお過ごしでしょうか。本年度の大学院医学研究科には新入生修士課程19名、博士課程32名が入学され、新たな一歩を踏み出されました。大学院事務担当も教務課：坂田・林田、庶務課学位申請担当：米村・津崎でみなさまのサポートに努めさせていただきます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。(林)